



太宰治の代表作として知られる本作ですが、その一番の見どころは磨き抜かれた名文により写實的に描かれた対人恐怖です。

人は多かれ少なかれ他人に対して何らかの恐怖心を抱いているものです。それは例えば、失望されたくない、軽蔑されたくない、拒絶されたくないといった類のもので、生活をする中で当たり前にも生じるものです。そんな感情が、生まれた時から人の心が分からない男、大庭葉蔵の視点から生々しく描写されています。また、人の落ちきった先の平穏と沈黙も見どころの一つです。

人生と人に不信感を持っている人にはぴったりの一作です。そうでない人にも多くの実りのある読書になると思います。興味のある方は是非ご一読ください

図書委員 9年 上原響樹